

News Release

プルデンシャル生命保険株式会社

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-10 プルデンシャルタワー
http://www.prudential.co.jp



Prudential

平成 21 年 6 月 4 日

プルデンシャル生命保険株式会社

平成 20 年度決算の一部訂正について

プルデンシャル生命保険株式会社（代表取締役社長兼最高経営責任者 三森 裕）より平成 21 年 5 月 29 日に発表しました標記の資料につきまして、下記のとおり誤りがございましたので訂正いたします。ご関係の皆様方にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

記

1. 訂正箇所および訂正内容

18 ページ <注記事項>（損益計算書関係）平成 20 年度

【誤】6. 金融派生商品費用には、評価益が 2,071 百万円含まれております。

【正】6. 金融派生商品費用には、評価益が 7,337 百万円含まれております。

2. 添付資料

「平成 20 年度決算」18 ページの差替資料

以上

差替

(損益計算書関係)

平成 19 年度(平成 19 年 4 月 1 日から 平成 20 年 3 月 31 日まで)	平成 20 年度(平成 20 年 4 月 1 日から 平成 21 年 3 月 31 日まで)																								
<p>1. 関係会社との取引による費用の総額は 981 百万円であります。</p> <p>2. 有価証券売却益の主な内訳は、国債等債券 2,633 百万円、株式等 515 百万円、外国証券 186 百万円、その他の証券 236 百万円であります。</p> <p>3. 有価証券売却損の主な内訳は、国債等債券 212 百万円、外国証券 1,229 百万円、その他の証券 388 百万円であります。</p> <p>4. 有価証券評価損の主な内訳は、外国証券 11,976 百万円、その他の証券 117 百万円であります。</p> <p>5. 支払備金戻入額の計算上、差し引かれた出再支払備金戻入額の金額は 826 百万円、責任準備金繰入額の計算上、差し引かれた出再責任準備金繰入額の内額は 37,496 百万円であります。</p> <p>6. 金融派生商品費用には、評価損が 2,365 百万円含まれております。</p> <p>7. 1 株あたりの当期純利益は 22,557 円 60 銭であります。</p> <p>8. 固定資産等処分益は 529 百万円です。主な内訳は、不動産売却益 529 百万円です。</p> <p>9. 固定資産等処分損は 54 百万円です。主な内訳は、不動産売却損 35 百万円です。</p> <p>10. 退職給付費用の総額は、2,491 百万円です。なお、その内訳は以下の通りです。</p> <table border="0" data-bbox="204 1397 715 1585"> <tr> <td>イ 勤務費用</td> <td>1,484 百万円</td> </tr> <tr> <td>ロ 利息費用</td> <td>278 百万円</td> </tr> <tr> <td>ハ 期待運用収益</td> <td>- 百万円</td> </tr> <tr> <td>ニ 会計基準変更時差異の費用処理額</td> <td>178 百万円</td> </tr> <tr> <td>ホ 数理計算上の差異の費用処理額</td> <td>519 百万円</td> </tr> <tr> <td>ヘ 過去勤務債務の費用処理額</td> <td>29 百万円</td> </tr> </table>	イ 勤務費用	1,484 百万円	ロ 利息費用	278 百万円	ハ 期待運用収益	- 百万円	ニ 会計基準変更時差異の費用処理額	178 百万円	ホ 数理計算上の差異の費用処理額	519 百万円	ヘ 過去勤務債務の費用処理額	29 百万円	<p>1. 関係会社との取引による収益の総額は 1,346 百万円、費用の総額は 1,250 百万円です。</p> <p>2. 有価証券売却益の主な内訳は、国債等債券 19,373 百万円、株式等 1 百万円、外国証券 533 百万円、その他の証券 16,401 百万円です。</p> <p>3. 有価証券売却損の主な内訳は、国債等債券 440 百万円、外国証券 3,572 百万円、その他の証券 2,073 百万円です。</p> <p>4. 有価証券評価損の主な内訳は、外国証券 59,189 百万円、その他の証券 3,487 百万円です。</p> <p>5. 支払備金繰入額の計算上、足し上げられた出再支払備金戻入額の内額は 126 百万円、責任準備金繰入額の計算上、差し引かれた出再責任準備金繰入額の内額は 62,159 百万円です。</p> <p>6. 金融派生商品費用には、評価益が 7,337 百万円含まれております。</p> <p>7. 1 株あたりの当期純利益は 3,412 円 96 銭です。</p> <p>8. 固定資産等処分益は 579 百万円です。主な内訳は、不動産売却益 579 百万円です。</p> <p>9. 固定資産等処分損は 108 百万円です。主な内訳は、不動産売却損 72 百万円です。</p> <p>10. 退職給付費用の総額は、2,288 百万円です。なお、その内訳は以下の通りです。</p> <table border="0" data-bbox="853 1397 1364 1585"> <tr> <td>イ 勤務費用</td> <td>1,412 百万円</td> </tr> <tr> <td>ロ 利息費用</td> <td>282 百万円</td> </tr> <tr> <td>ハ 期待運用収益</td> <td>- 百万円</td> </tr> <tr> <td>ニ 会計基準変更時差異の費用処理額</td> <td>178 百万円</td> </tr> <tr> <td>ホ 数理計算上の差異の費用処理額</td> <td>385 百万円</td> </tr> <tr> <td>ヘ 過去勤務債務の費用処理額</td> <td>29 百万円</td> </tr> </table>	イ 勤務費用	1,412 百万円	ロ 利息費用	282 百万円	ハ 期待運用収益	- 百万円	ニ 会計基準変更時差異の費用処理額	178 百万円	ホ 数理計算上の差異の費用処理額	385 百万円	ヘ 過去勤務債務の費用処理額	29 百万円
イ 勤務費用	1,484 百万円																								
ロ 利息費用	278 百万円																								
ハ 期待運用収益	- 百万円																								
ニ 会計基準変更時差異の費用処理額	178 百万円																								
ホ 数理計算上の差異の費用処理額	519 百万円																								
ヘ 過去勤務債務の費用処理額	29 百万円																								
イ 勤務費用	1,412 百万円																								
ロ 利息費用	282 百万円																								
ハ 期待運用収益	- 百万円																								
ニ 会計基準変更時差異の費用処理額	178 百万円																								
ホ 数理計算上の差異の費用処理額	385 百万円																								
ヘ 過去勤務債務の費用処理額	29 百万円																								